

★海外だより①★

■フランス・ストラスブールからの報告

『コウノトリ便り』

宮本博幸¹ (18回生)

附設同窓生のみなさま、こんにちは。フランス東部アルザス地方、ドイツとの国境の町、ストラスブールからお便りしています。ここアルザスはお隣りロレーヌとともに、A・ドーデの月曜物語の中に出てくる「最後の授業」に描かれているようにドイツとフランスの間で何度も帰属が替わった地方です。フランス地図を見ると、ストラスブールはパリ東方400km、東の端ですが、EU地図を見ると、ほぼ真ん中になり、いまではヨーロッパというくくりで土地の人は生きています。欧州連合の立法機関である欧州議会はこの地に置かれていますし、インターネットブラウザで www.strasbourg.fr と入れると、www.strasbourg.eu にリダイレクトされるはずですが、つまりフランスのストラスブールというより、ヨー

ロッパのストラスブールなのです。

私は40年近く前、フランス政府給費留学生として学位取得のため、ロレーヌ地方のナンシーで3年を過ごし、帰国後は大学で教育・研究に携わってきたのですが、縁あって、この4月から日本学術振興会(JSPS)という文部科学省下の独立行政法人がもつ、フランス研究連絡センターの所長を務めることになりました。日本学術振興会というのは、大学・公的研究機関に科学研究費(通称、科研費)という研究助成金を出す機関ですので、研究者の方はよくご存じのことと思います。いまから82年前、学術振興のため、昭和天皇のご下賜金をもとに創られた組織で、学術・基礎研究振興のためのさまざまな支援や日本の研究者を海外に派遣、外国の優れた研究者を招聘することも行っています。

当研究連絡センターは日本とフランスの研究機関間の研究交流促進のため、フランスの大学・研究所や省庁を訪れて、情報交換やJSPSの事業説明をやっています。また、日本の大学がグローバル化展開にあたり、さまざまな支援を提供するとともに、日本に招聘する研究者の選考、そして日本から帰国した研究者のネットワーク構築という役割もあります。さらに、年に2回、テーマを決めて日仏第一線の学者を集めたシンポジウムも開いています。センターはストラスブール大学キャンパスの一角にある、日仏学会館という小さな建物の中にあります。フランスにひとつしかないセンターがパリではなく、なぜ東のはずれ、ストラスブールにあるのか、それは当地が強く誘致したからに他なりません。今年はアルザス-日本友好150年に当たります。化学者で元ストラスブール大学長、かつフランス科学アカデミーの院長だったウリソン先生はストラスブール大学教授になって以来、死ぬまで研究室に日本人研究者を絶やしたことがないのが自慢でした。日本の大学との繋がりは強く、10数大学が活発に交流プログラムを進めており、毎月2回程度、日仏の研究者が当センターで講演会をやり学术交流を図っています。研究者交換協定に基づき、ストラスブール大学に1ヶ月滞在。その間に研究者交流や講演をやっています。ストラスブール大学はこれまでにノーベル賞受賞者を18人、フィールズ賞受賞者を1人出しています。詳細は www.jsps.unistra.fr をご覧ください。

先日、パリ市立工業物理化学高等専門大学(グラン・ゼコールのひとつ)を訪ねました。ここは1882年創立以来、6つのノーベル賞を受賞した5人の研究者(マリ・キュリーは物理学賞、化学賞を受賞のため)を輩出した学校です。校長以下、研究担当理事等に会い、その後研究室を見学しました。ここでキュリー夫妻がラジウムを発見、ここでランジュバンが超音波応用の実験を行ったという銘板がそこここにあります。最後に学校に併設のピエール・ジル・ド・ジェンス(元校長で、ノーベル物理学賞)の名を冠した小さな博物館に行くと、子供たちが楽しそうに実験をしています。ここは子供たちが身のまわりの科学を体験できる場所ですが、すぐそばには、ピエール・キュリーが作った実験装置、そのものが置いてあります。この学校の定員は1学年たった80人。最初の2年間は物理・化学・生物を少人数で、しかも実験を交えて授業を行うのが特徴です。

シンポジウムを先日、航空産業の中心地、トゥールーズで開きました。日本とフランスの航空宇宙関係の研究者を集めて2日間の討論会です。会議後、エアバス社の工場見学をしましたが、そこでは日本のスカイマーク社が発注したA380という総2階建ての旅客機が組み立て中でした。エアバスというのはヨーロッパ4ヶ国が共同で開発している一連の航空機で、各国が分担して生産し、トゥールーズで最終組み立てをやっています。一見、非効率に見えますが、仕事を分担することで各地に雇用を産み出し、各国は完成した機体を購入するという図式になるだけでなく、最近では中国やアメリカにも工場を造っています。米国ボーイング社に対抗できる唯一の飛行機製造会社

¹ (独) 日本学術振興会フランス研究連絡センター所長

★海外だより②★

で、先頃、日本航空も導入を決めました。このエアバスはEUの思想を色濃く反映した成功例といえます。

フランスには、ブルターニュ、バスク、コルシカ、そしてアルザスとそれぞれの地方に方言がありますが、アルザス語はドイツ語方言のひとつといわれています。地元の人にはフランス語とアルザス語を喋り、市場に行けばフランス語に混じってアルザス語も聞こえてきます。また、フランスには、概して勤勉で時間を守る人が多く、その点では仕事がしやすい方でしょう。かつて日本企業がアルザスにたくさん進出しましたが、長引く不況のためか、何社か撤退したのは残念です。アルザス地方は夏暑く、冬寒い大陸性気候のため、ライン川沿いの丘陵地はふくよかな香りのアルザス白ワインの産地です。また、土地柄、古くからビール醸造も行われており、料理もフランス料理とドイツ料理が混じった、一種独特のものであります。

もし、フランス、ドイツ、スイスにいらっしゃる機会がありましたら、ストラスブールにお立ち寄りください(パリからTGVで2時間20分、フランクフルトからバスで2時間30分、バーゼルから列車で1時間20分)。研究職に就いている附設卒業生には食事付きの講演会を準備いたします。連絡先は上記Webページにあります。

今秋、無機化学に関するシンポジウムを開きますが、日本側第一級の研究者を率いて来るのは附設23回生(中学1回生)の穂田宗隆東京工大教授です。東京では毎年、恩師の天津留敬先生(短歌の天津留先生といった方がわかりやすいでしょう)を囲んで天津留学校という勉強会を開いています。そこでの顔なじみが穂田先生です。すでに準備が始まっていたフォーラムの日本側研究者リストを着任後見たらお名前がありました。附設は60年余で1万人ちょっとの卒業生という小さな学校ですが、改めて大きな(偉大な)学校と思います。母校の発展と同窓生諸氏のますますのご活躍を祈っております。

「教えるとは希望を語ること/学ぶとは誠実を胸にきざむこと」

ルイ・アラゴン「ストラスブール大学の歌」より 大島博光訳



ストラスブール旧市街・プチットフランス(ユネスコ世界遺産)

■宮本博幸(みやもとひろゆき)氏のプロフィール

1951年生まれ、附設高等学校1970年卒業(18回生)。慶應義塾大学工学部電気工学科卒・同大学院修士課程修了、1976年から3年間、フランス政府給費留学生として、フランス国立ロレーヌ工科大学博士課程で研究。博士号取得。1980年から東京女子医科大学医用工学研究施設、1989年から千葉工業大学情報工学科勤務。この間、20年にわたり、フランス政府給費留学生の会会長を務める。2014年4月から(独)日本学術振興会フランス研究連絡センター所長。慶應義塾大学理工学部矢上賞受賞、フランス共和国パルム・アカデミック勲章受章

★会務報告①★

■理事評議員会報告■

同窓会副会長 伯川志郎 (15回生)

■平成25年度理事会評議委員会報告

I. 平成25年度理事会評議委員会 (平成25年5月26日母校にて開催)

議案及び報告事項「()内は説明者」

【決議事項】

1. 平成24年度活動報告 (一瀬徹夫副会長)
2. 監査報告、平成24年度決算案承認の件 (伯川志郎副会長)
3. 規約等改正案 (中村和徳理事)
当該規約等改正の詳細は同窓会ホームページでご覧ください。
(<http://www.fusetsu.gr.jp/>) = (附設高校同窓会でも検索可能)
 - ① 同窓会規約
 - ・会員に同窓会費の納入義務があることを明記
 - ② 同窓会会計規則
 - ・平成26年度の新入会員より終身会費の納入方法を変更 (その他の会員は従来通り)
 - ・会費は一般会計と特別会計で管理する
 - ③ 同窓会会計細則 (新設)
 - ・特別会計と一般会計につき細則新設

○当該議案の議事に入る前に長谷川房生会長より同窓会組織の強化についての説明あり

4. 平成25年度予算案承認の件 (伯川志郎副会長)

上記、各議案は、理事会評議委員会で承認され、平成25年7月7日開催の同窓会総会にて最終承認を受けております。

【報告事項】

その他以下の通りの報告がありました。

1. 平成24年度大学進学状況 (校内理事)
2. 各支部状況 (各支部長)
3. 回生世話人会の充実 (長谷川房生会長、中村和徳理事)
4. 思考廻廊推進委員会 (小田恵介副会長)
5. IT情報・名簿委員会 (松雪恵津男理事)
6. 就職セミナー (牛嶋啓二東京副支部長)
7. 進路講座 (吉本幸治理事)
8. 講演会との連携 (田中利美福岡支部長)

■平成26年度理事会評議委員会報告

II. 平成26年度理事会評議委員会 (平成26年5月25日母校にて開催)

議案及び報告事項「()内は説明者」

【決議事項】

1. 平成25年度活動報告 (一瀬徹夫副会長)
2. 監査報告、平成25年度決算案承認の件 (伯川志郎副会長)
 - ・一般会計収支決算書案、特別会計収支決算書案を参照
 - ・概要説明は報告事項の後に記載
3. 平成26年度予算案承認の件 (伯川志郎副会長)
 - ・一般会計収支予算案参照
 - ・概要説明は報告事項の後に記載
4. 会長推薦委員会検討結果承認の件 (大神甫監事)
 - ・平成26年5月25日開催の推薦委員会の結果が報告された。
 - ・長谷川現会長は2期4年間会長を務められたが、再任をお願いすることになった。
5. 26年度、27年度役員(案)承認の件 (長谷川房生会長)
 - ・別紙役員名簿案参照
 - ・顧問2名追加、副会長5名体制等

★会務報告②★

上記、各議案は理事会員会で承認され、平成26年7月21日開催の同窓会総会において最終承認を受けることになっております。

【報告事項及び特記事項】

1. 平成25年度大学進学状況報告（校内理事）
2. 各支部報告（各支部長）
3. 就職セミナー（牛嶋啓二東京副支部長）
4. 回生代表世話人会の充実（中村和徳理事）
5. 講演会との連携（田中利美福岡支部長）
6. 思考廻廊推進委員会（小田恵介副会長）
7. IT情報、名簿委員会（松雪恵津男理事）
8. 進路講座（吉本幸治理事）

Ⅲ. 平成25年度決算予算に関する追加説明

1. 平成25年度決算

① 平成25年度一般会計収支決算書（別紙 32頁参照）

（収入の部）

- ・ 終身会費の回収率が80%を超えた（61回生62回生）ため、予算比増加
- ・ 過年度卒業生からの終身会費が予算時（5名）より多かった（20名）
- ・ 広告料収入は予算未達成
- ・ 収入合計は予算比1,093千円増加

○過年度卒業生からの終身会費納入促進が必要である。

○広告料等収入拡大のためのシステムを検討することが必要である。

（支出の部）

- ・ 特記事項なし、支出合計は予算比1,491千円減少

（当期収支差額ほか）

- ・ 当期収支差額は1,750千円の黒字となり予算比1,584千円増加
- ・ 終身会費の収入5,630千円の全額を特別会計に繰出した結果、次年度繰越金は10,184千円となった。

② 平成25年度特別会計収支決算書（別紙 33頁参照）

- ・ 当年度収入分を一般会計より繰入、結果として次年度繰越金は前年度比5,687千円増加の167,995千円となった。

○特別会計の資金の用途について、早急に検討して規定等作成が必要である。

○過年度消費した金額について経過報告が必要である。

③ 平成26年度一般会計収支予算書（別紙 34頁参照）

（収入の部）

- ・ 新規の収入として終身会費の新制度による収入が1,920千円発生予定
- ・ 過年度卒業生からの終身会費収入を10名分と予定

（支出の部）

- ・ 同窓会本部の事務局充実のための人件費等の費用を予算化（1,000千円）
- ・ 同じく、東京支部の事務局充実のための設備費用等を予算化（500千円）
- ・ 新人歓迎会を東京及び福岡、その他で実施するための費用を予算化
- ・ 冊子による同窓会名簿に対す根強い要請があるため、5年に1度の冊子名簿の発行を予定し、每期1,000千円を5年間引当計上

○ただし冊子名簿の必要性については今後十分な検討が必要

- ・ 思考廻廊の次の工事等のための費用を10年間で引当計上

★会務報告③★

平成25年度 一般会計収支決算書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(円)

費目	予算額	決算額	差異	備考
[収入の部]				
会費(入会金)	828,000	828,000	0	4,000円×207名
会費(年会費)	3,678,000	3,677,500	△ 500	500円×612名×12ヶ月 500円×1名×11ヶ月
会費(終身会費)	4,060,000	5,040,000	980,000	30,000円×168名 61・62回生
終身会費過年度分	150,000	590,000	440,000	30,000円×19名 20,000円×1名
広告料収入	1,000,000	605,000	△ 395,000	
寄付金	0	66,071	66,071	62回生藤井研仁氏 3万円
雑収入	0	2,437	2,437	預金利息
当期収入合計	9,716,000	10,809,008	1,093,008	
[支出の部]				
1. 事務費	1,380,000	1,326,534	△ 53,466	
事務消耗費	30,000	0	△ 30,000	
事務委託費	1,200,000	1,200,000	0	事務員給与負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰り出し
通信費	60,000	58,899	△ 1,101	インターネット利用料 40,149円 切手・ハガキ他
印刷費	30,000	11,110	△ 18,890	
事務雑費	60,000	56,525	△ 3,475	
2. 事業費	9,070,000	7,731,877	△ 1,338,123	
(会議関連費用)				
理事評議員会議費	400,000	445,349	45,349	
拡大正副会長会議	250,000	232,979	△ 17,021	
総会関連支援費	100,000	67,340	△ 32,660	
支部総会関連	200,000	187,610	△ 12,390	熊本・北海道・福岡・山口・佐賀・東京・長崎・関西支部
後援会との交換会	50,000	40,000	△ 10,000	
回生世話人会議	720,000	569,370	△ 150,630	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	450,000	431,355	△ 18,645	体育祭援助費 131,355円 文化祭援助費 300,000円
部活援助費	300,000	299,400	△ 600	美術部 30,000円 サッカー部 30,000円 軟式野球部 30,000円 アウトドア部 30,000円 テニス部 30,000円 バスケット部 30,000円 保健委員会 29,400円 演劇部 30,000円 バレー部 30,000円 水泳部 30,000円
卒業記念品代	350,000	307,146	△ 42,854	ペーパーウェイト 206個
進路指導費	600,000	556,500	△ 43,500	卒業生模擬試験経費援助 130,000円 卒業生激励会経費援助 426,500円
就職セミナー費用	200,000	194,960	△ 5,040	
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	600,000	543,000	△ 57,000	サーバーハウジング費用 63,000円 ホームページ更新費 480,000円
校舎竣工記念会報	2,500,000	2,428,267	△ 71,733	
名簿関連費用	1,000,000	573,064	△ 426,936	
思考廻廊関連	600,000	455,750	△ 144,250	
竣工記念講演会	600,000	357,300	△ 242,700	
慶弔費	50,000	10,437	△ 39,563	
事業費雑費	100,000	32,050	△ 67,950	
3. 予備	100,000	0	△ 100,000	
当期支出合計	10,550,000	9,058,411	△ 1,491,589	
当期収支差額	△ 834,000	1,750,597	2,584,597	
4. 特別会計へ繰入	4,210,000	5,630,000	1,420,000	
前年度繰越金	14,063,973	14,063,973	0	
次年度繰越金	9,019,973	10,184,570	1,164,597	

※ 25年度末 会費未収 500円(26年4月15日入金済み)

財産目録

普通預金(福岡銀行 久留米営業部)	10,184,570円
普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	0円
総合口座(ゆうちょ銀行 久留米合川郵便局)	0円

計

10,184,570円

★会務報告④★

平成25年度 特別会計収支計算書

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

〈収入の部〉

(円)

前年度繰越金	162,308,583
同窓会費会計より繰入	5,630,000 (30,000円×187名, 20,000円×1名)
雑収入	307,035
当期末終身会費預り金	118,720 (30,000円×4名, 手数料1,280円)
計	168,364,338

〈支出の部〉

(円)

貸金庫使用料	12,600
前期末終身会費預り金	356,240
次年度繰越金	167,995,498
計	168,364,338

財産目録

普通預金(筑邦銀行本店営業部)	7,200,297円
定期預金(筑邦銀行本店営業部)	90,603,481円
定期預金(福岡銀行久留米営業部)	20,000,000円
国債	50,073,000円
振替口座(ゆうちょ銀行)	118,720円(預り金)

計	167,995,498円
---	--------------

★会務報告⑤★

平成26年度 一般会計収支予算書(案)

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(単位:円)

費目	前年度決算	当年度予算	差額	備考
[収入の部]				
会費(入会金)	828,000	800,000	△ 28,000	年4,000円×200名
会費(年会費)	3,677,500	3,600,000	△ 77,500	月500円×200名×3
会費(終身会費)	5,040,000	4,800,000	△ 240,000	年30,000円×200名×80%
終身会費新制度分		1,920,000	1,920,000	月800円×200名=新1年生分
終身会費過年度分	590,000	300,000	△ 290,000	新規10名以上を目標
広告料収入	605,000	1,000,000	395,000	会報及びHPへの広告目標
寄付金	66,071		△ 66,071	
雑収入	2,437		△ 2,437	
当期収入合計	10,809,008	12,420,000	1,610,992	
[支出の部]				
1. 事務費	1,326,534	2,920,000	1,593,466	
事務消耗品費	0	30,000	30,000	
事務委託費	1,200,000	1,200,000	0	事務委託費
同窓会本部予備費		1,000,000	1,000,000	同窓会総務設備、人件費ほか
東京事務所予備費		500,000	500,000	事務所賃貸費等追加分
通信費	58,899	100,000	41,101	インターネット使用料工事他
印刷費	11,110	30,000	18,890	封筒代印刷ほか
事務雑費	56,525	60,000	3,475	同窓会室維持管理ほか
2. 事業費	7,731,877	9,030,000	1,298,123	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	445,349	450,000	4,651	旅費・食事代一部負担他
拡大正副会長会議	232,979	250,000	17,021	TV会議5回、旅費含む
総会関連支援費	67,340	200,000	132,660	総会予備費及び講師旅費
支部総会関連	187,610	200,000	12,390	支部支援11支部及び旅費
後援会との交換会	40,000	60,000	20,000	会議4回、懇親会2回 5名
回生世話人会議	569,370	720,000	150,630	東京2回、福岡2回、60名3千円
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	431,355	450,000	18,645	体育祭、文化祭、その他
部活援助費	299,400	300,000	600	
卒業記念品代	307,146	350,000	42,854	ペーパーウェイト
進路指導費	556,500	500,000	△ 56,500	
新人歓迎会補助		200,000	200,000	東京支部、福岡支部
就職セミナー費用	194,960	300,000	105,040	東京で開催
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	543,000	600,000	57,000	
会報	2,428,267	2,500,000	71,733	毎年発行
ウェブ名簿更新	573,064	700,000	126,936	適時入力
名簿作成引当		1,000,000	1,000,000	冊子5年に1回発行
思考廻廊関連引当		100,000	100,000	10年後に工事100万円予定
思考廻廊関連費	455,750		△ 455,750	
竣工記念講演会	357,300		△ 357,300	
慶弔費	10,437	50,000	39,563	
事業費雑費	32,050	100,000	67,950	
3. 予備費	0	100,000	100,000	
当期支出合計	9,058,411	12,050,000	2,991,589	
当期収支差額	1,750,597	370,000		
特別会計へ繰入(繰出)	△ 5,630,000	△ 4,800,000	△ 830,000	旧制度終身会費分全額
前年度繰越金	14,063,973	10,184,570	△ 3,879,403	
次年度繰越金	10,184,570	5,754,570	△ 4,430,000	

★会務報告⑥★

久留米大学附設高等学校同窓会 平成26・27年度 役員名簿 (案)

役職名	支部名	回生	氏名
顧問			
1	福岡	7	大神 甫
2	福岡	8	井手 和英
3	東京	8	渡辺 望稔
4	福岡	10	古賀 暉人

会長	福岡	13	長谷川 房生
----	----	----	--------

副会長	支部名	回生	氏名
1	福岡	15	古澤 生敏
2	東京	19	川嶋 文信
3	福岡	20	田中 利美
4	東京	27	中村 和徳
5	福岡	28	吉本 幸治

理事	支部名	回生	氏名
1	関西	5	井手口 誠思
2	佐賀	13	宮本 祐一
3	東京	14	長縄 雅夫
4	山口	14	小柳 信洋
5	中四国	16	近藤 治幸
6	東京	19	高橋 友作
7	大分	19	藤原 公司郎
8	福岡	19	久富 公資
9	東京	19	小田 惠介
10	福岡	19	天本 敬吾
11	北海道	20	檀浦 龍二郎
12	福岡	20	橋本 和幸
13	東京	20	安部 政信
14	東京	21	行武 俊行
15	福岡	22	松雪 恵津男
16	福岡	22	岸 哲司
17	長崎	24	安武 亨
18	東京	28	高木 裕康
19	熊本	30	江頭 有朋
20	福岡	34	秋本 丈司
21	校内	23	赤池 俊信
22	校内	47	行正 幸司
監事	福岡	13	一瀬 徹夫
(2)	福岡	15	伯川 志郎

支部長	支部名	回生	氏名
1	中四国	3	森山 弘行
2	関西	5	友添 郁夫
3	熊本	10	石川 浩一郎
4	佐賀	13	宮本 祐一
5	山口	14	小柳 信洋
6	長崎	15	今村 由起夫
7	東京	19	小田 惠介
8	大分	19	藤原 公司郎
9	北海道	20	檀浦 龍二郎
10	福岡	22	松雪 恵津男

役職名	支部名	回生	氏名
評議員			
1	福岡	1	隈 正之輔
2	福岡	3	安恒 好太郎
3	福岡	4	丸林 茂夫
4	大分	7	植木 陽太郎
5	福岡	8	松平 信昌
6	山口	10	原 好弘
7	東京	11	野尻 公啓
8	福岡	11	重永 征廣
9	関西	12	西原 昭義
10	福岡	13	小牧 徹志
11	東京	13	小川 禎一郎
12	佐賀	13	西 晃央
13	東京	13	増田 恒夫
14	東京	14	久保田 徹
15	熊本	14	寺嶋 隆則
16	福岡	15	平田 三郎
17	福岡	16	中野 博
18	福岡	17	武田 由照
19	福岡	18	村岡 和彦
20	福岡	19	横山 晴明
21	東京	20	山下 喜弘
22	関西	20	山本 伸一
23	北海道	20	西見 寿博
24	福岡	21	小林 隆利
25	関西	21	横山 俊祐
26	関西	21	甲斐田 郁夫
27	福岡	22	山口 博徳
28	福岡	23	江藤 宏隆
29	東京	23	吉田 清隆
30	福岡	24	下川 敏弘
31	福岡	25	宮原 信孝
32	福岡	26	井本 公重
33	東京	26	牛嶋 啓二
34	福岡	27	執行 謙二
35	福岡	28	岡村 和彦
36	中四国	28	田代 聡
37	福岡	29	木下 宏太郎
38	東京	29	日高 雄三郎
39	福岡	31	森田 昇
40	長崎	33	本村 克明
41	福岡	34	永田 八栄
42	福岡	37	木下 明
43	東京	39	福山 泰平
44	福岡	39	古賀 篤蔵
45	福岡	42	楠田 大智
46	東京	51	福島 史
47	東京	54	千代田 武大
48	福岡	56	大澤 めぐみ
49	福岡	57	足達 咲希
50	東京	58	中島 英恵
51	福岡	58	山下 華代

★会務報告⑦★

■IT情報・名簿委員会報告■

同窓会副会長 一瀬徹夫(13回生)

『みんなで作る附設ファミリー同窓会名簿』

理事 松雪 恵津男(22回生)

附設の同窓生も1万人を超える状況となり、名簿の作成にも多大の時間と費用がかかるようになりました。

そこで、昨年5月発行の同窓会報第20号でもご報告しておりましたとおり、今回の同窓会名簿は、IT化の進展、今後の情報管理の効率などを勘案し、初めて**Webによる同窓会名簿**としました。

このWeb名簿では、同窓生の動向がすぐに検索できるという大きな利点がありますが、それには同窓生のみなさんご協力(情報入力=インプット)が必要です。

昨年9月に同窓会ホームページにアップして回生代表世話人からも入力を勧誘してもらっていますが、同窓生みなさんに登録していただいた件数は、まだ900件超にとどまっています。

こうした状況を踏まえ、まだ入力されていない方については、同窓会が保有している既存の情報を一旦入力させていただくこととしました。

移行作業は7月中旬頃までに完了させ、その後は、今回のWeb名簿の目玉である検索ができるようになる予定です。スケジュールについては今後ホームページにも掲示していきたいと考えています。

移行作業が終了した後は、既に入力された方も、随時新しい情報を入力していただくとともに、まだ入力されたことがない方も、是非名簿にアクセスして新しい情報に修正してください。

入力自体は、きわめて簡単です。次ページをご覧ください。パスワードがわからない方は、**同窓会事務室(Tel 0942-44-2222)**へお問い合わせください。

また、パソコンでの入力にご自信のない方は、同窓会事務室にて代理入力いたします。FAX用紙は同窓会ホームページの左上(同窓会Web名簿開始 代理入力ご希望の方)から印刷してください。

同窓生皆さんの最新の情報が入力されることで、例えば同じ勤務先の同窓生を検索することも容易になり、社内の同窓生ネットワーク構築も大変便利になりますので、名簿への情報入力を是非よろしくお願いします。

■終身会費納入のお願い■

現在、終身会費：30000円を未納の方が、卒業生の約1/3程度おられます。未納の方は、是非、下記の口座に振り込んでいただくよう、よろしくお願い申し上げます。

○振込先 ゆうちょ銀行 口座記号：01750-7 口座番号：54988
久留米大学附設高等学校

【注】振込人の最初に回生番号を入れてください。(見本：13イチノセテツオ)

★会務報告⑧★

附設高校同窓会Web名簿 ～世界に広げよう附設同窓生の輪～

附設同窓生が1万人を越える状況となり、名簿の作成にも多大な時間と費用がかかるようになりました。

このWeb名簿では同窓生の動向がすぐに検索できることを目標としていますが、それには同窓生の協力(情報入力=入力)が必要です。

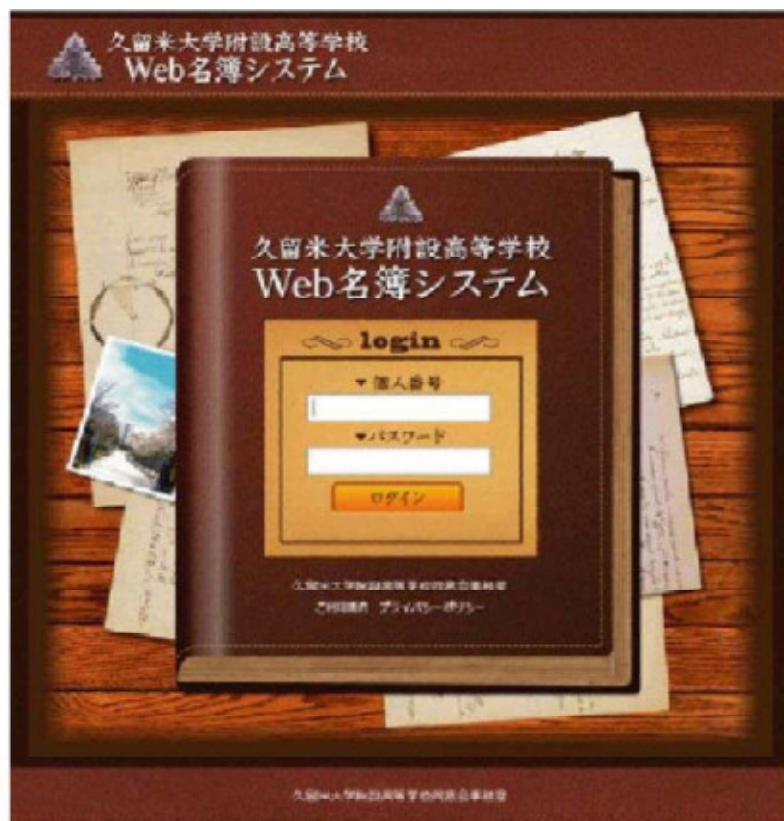
今後、回生世話人を通して推進致しますのでご協力どうぞよろしくお願い致します。

～簡単・楽ちん・Web名簿インプット～

- 1.ブラウザで「**fusetsu.net**」にアクセスします。
- 2.個人番号・パスワードを入力して「ログイン」をクリックします。
- 3.ページ下部の「情報を変更」ボタンを押すと、入力画面に変わりますので、情報を入力し「登録・更新」をクリックします。

※詳しくは、同窓会ホームページ(www.fusetsu.gr.jp)内の使用マニュアルをご覧ください。

※個人情報パスワードは昨年5月に郵送した同窓会報に同封した他、回生世話人には各回生分をお伝えしていますので、分からない方は回生世話人にお問い合わせ下さい。



附設高校同窓会名簿作成委員会

★卒業生への支援①★

■就職セミナー■ 熱気あふれる附設同窓会 就職セミナー、今年で19年目を迎える

東京支部副支部長 牛嶋啓二(26回生)



同窓会 就職活動 学生支援日程・体制

	2013		2014					
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
一般企業の日程		解禁			就職説明会		内々定	
同窓会集會及び	11/24 第一回		2/1 第二回					
フロンティア体制	Phase 1 社会人からの インプットと ネットワーク 形成		Phase 2 実践的 訓練による 学生自身の アウトプット				Phase 3 個別学生への フォロー	

2013年11月24日(日)第18回就職セミナー、東京・田町：CIC/キャンパス・イノベーションセンターにて開催

◆就職セミナーへの思い◆

東京地区で就職セミナーを開催し続けて、今年で19年目を迎えます。今では、このセミナーでお世話になった若手連中が後輩の面倒を見てくれるようになり、先輩方が苦勞してこのセミナーを始められたころから比べるとずいぶん様子も変わってきました。

昨今、景気も上向いてきたようで就職状況も全体的には好転していますが、一方で単に一流大学です、高学歴です、というだけで本人が希望している就職が叶うほど甘くなく、企業や社会が求める学生への能力と資質は、グローバル競争の中でますます高度になり、厳しさを増しています。

附設高校を卒業して、実質的に附設の先輩方の有難みを感じることが出来る最初の機会が、就職活動の時期ではないでしょうか。同窓会としても、この機会をしっかりと受け止め、迷い悩める学生諸君の支援を行うことが重要な役割の一つであることは言うまでもありません。今後とも本活動を充実させ、少しでも多くの学生が同窓会の持つ素晴らしい資産を活用できる環境を整備出来たらと思います。

そんな思いで、来年社会に出る学生向けに行った今回の就職支援活動について、様子をご紹介します。

■就職活動期間に合わせた こまめな支援活動へのチャレンジ！

過去数年間の参加学生からの意見も踏まえ、従来までは基本年一回半日のセミナーだけでしたが、今回は期間により以下の3つのフェーズに分けて、タイムリーで適切な支援が出来る工夫をしました。

- フェーズ1：就職活動が本格化する12月前の時期の準備期間
- フェーズ2：面接、選考が具体化する3月前の実践的な訓練期間
- フェーズ3：内定迄の、個別相談、対応期間

それぞれの時期に応じて以下の支援対応を行いました。

- フェーズ1：昨年11月に第1回目の就職セミナーを開催(インプットセミナー)：11月24日(日)に開催出来るだけ多くの社会人OBに参加してもらい就職活動や社会人になることの意味について話をし頂き漠然と持っている会社、業界、職種のイメージを明確化してもらい、就活前に準備すべき内容のインプットを行った。また各業界で活躍する先輩方との人脈作りの場とした。
- フェーズ2：今年の2月に第2回目の就職セミナーを開催(アウトプットセミナー)：2月1日(土)に開催就活学生を中心に、数名の先輩インストラクターにより、模擬面接、模擬グループディスカッション等を実際にやってもらい、実践的な訓練を施し、面接官がどこを見ているか、どう評価されるのかをアドバイスした。

★卒業生への支援①★

■就職セミナー■ 熱気あふれる附設同窓会 就職セミナー、今年で19年目を迎える

東京支部副支部長 牛嶋啓二(26回生)



同窓会 就職活動 学生支援日程・体制

	2013		2014					
	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
一般企業の日程		解禁			就職説明会		内々定	
同窓会集会日程	11/24 第一回			2/1 第二回				
面接・選考								
フロンティア体制	Phase 1 社会人からの インプットと ネットワーク 形成		Phase 2 実践的 訓練による 学生自身の アウトプット				Phase 3 個別学生への フォロー	

2013年11月24日(日)第18回就職セミナー、東京・田町：CIC/キャンパス・イノベーションセンターにて開催

◆就職セミナーへの思い◆

東京地区で就職セミナーを開催し続けて、今年で19年目を迎えます。今では、このセミナーでお世話になった若手連中が後輩の面倒を見てくれるようになり、先輩方が苦労してこのセミナーを始められたころから比べるとずいぶん様子も変わってきました。

昨今、景気も上向いてきたようで就職状況も全体的には好転していますが、一方で単に一流大学です、高学歴です、というだけで本人が希望している就職が叶うほど甘くなく、企業や社会が求める学生への能力と資質は、グローバル競争の中でますます高度になり、厳しさを増しています。

附設高校を卒業して、実質的に附設の先輩方の有難みを感じることが出来る最初の機会が、就職活動の時期ではないでしょうか。同窓会としても、この機会をしっかりと受け止め、迷い悩める学生諸君の支援を行うことが重要な役割の一つであることは言うまでもありません。今後とも本活動を充実させ、少しでも多くの学生が同窓会の持つ素晴らしい資産を活用できる環境を整備出来たらと思います。

そんな思いで、来年社会に出る学生向けに行った今回の就職支援活動について、様子をご紹介します。

■就職活動期間に合わせた こまめな支援活動へのチャレンジ！

過去数年間の参加学生からの意見も踏まえ、従来までは基本年一回半日のセミナーだけでしたが、今回は期間により以下の3つのフェーズに分けて、タイムリーで適切な支援が出来る工夫をしました。

- フェーズ1：就職活動が本格化する12月前の時期の準備期間
- フェーズ2：面接、選考が具体化する3月前の実践的な訓練期間
- フェーズ3：内定迄の、個別相談、対応期間

それぞれの時期に応じて以下の支援対応を行いました。

- フェーズ1：昨年11月に第1回目の就職セミナーを開催（インプットセミナー）：11月24日（日）に開催出来るだけ多くの社会人OBに参加してもらい就職活動や社会人になることの意味について話を頂き漠然と持っている会社、業界、職種のイメージを明確化してもらい、就活前に準備すべき内容のインプットを行った。また各業界で活躍する先輩方との人脈作りの場とした。
- フェーズ2：今年の2月に第2回目の就職セミナーを開催（アウトプットセミナー）：2月1日（土）に開催就活学生を中心に、数名の先輩インストラクターにより、模擬面接、模擬グループディスカッション等を実際にやってもらい、実践的な訓練を施し、面接官がどこを見ているか、どう評価されるのかをアドバイスした。

★卒業生への支援②★

●フェーズ3：3月以降、業界ごとに対応窓口を決め、個別に学生への支援が出来る体制に

より、こまめなフォローを現在も継続中 まだ内定をもらえず不安な学生もいるので、引き続き皆さんの支援をよろしくお願いします。

■お礼と次回に向けた準備

上記の通り、今回は2度の集合セミナーを、それぞれ明確に目的と内容を変えて行いました。それぞれ30名前後の学生が集まり合計で10時間以上のセミナープログラムを提供したこととなります。今回も広告代理店で人事採用部門を経験した50回生の山口君、51回生の大津君の両名が如何なく才能を発揮してくれ、名アドバイザー、インストラクターとなって学生たちに刺激を与え、就活への向き合い方を示してくれました。両名以外にも多くの業界、財界のOBの方がた、若手官僚諸君含め、後輩の為ならと多忙の中、遠地からも参加して頂き、学生に対するそれぞれの思いを熱く語ってもらい就活生と交流して頂きました。事務方としても55回生の五十嵐君をリーダーに、57回生の内定コンビ、財津君、永井君には大変お世話になりました。あらためてこの場をお借りして、本セミナーにご協力、ご支援いただいた皆様には、同窓会からもお礼申し上げます。

出来るだけ多くの学生に参加してもらえるような工夫や、個別のフォロー体制等、現実にはまだまだ改善の余地もありますが、それぞれ仕事を抱えた中でのボランティア活動の中での支援なので、簡単ではありません。試行錯誤の中でのチャレンジを行い、最適な方法を検討し続けて行こうと思います。

次回は、2014年11月22日土曜日の午後に第一回目の就職セミナーを開催予定です。次回も多くの方、内定者の諸君に集ってもらい、後輩学生のご支援ご協力よろしくお願いたします。

2014年5月



先輩から、社会人として働くことの意味、会社とは何か、など貴重な話がありました。



グループ討議などの様子

★卒業生への支援②★

■新人歓迎会■ 新会員の皆さん! ようこそ、東京支部へ

60回生/電気通信大学情報理工学部3年 畔柳 駿一



2013年6月7日(土)東京支部新人歓迎会

6月と言うと、大学生、特に1回生にとっては初めての履修登録を終えて、授業を数回受け、大体こんなもんかと落ち着きを得られる時期でしょうか。

そんな6月の下旬に東京支部では毎年新人歓迎会を行っています。これから東京支部の新人歓迎会について紹介させていただきます。

新人歓迎会は新たに上京して来た学生同士の交流と、東京支部の紹介を目的に実施しています。東京支部では、東京支部総会や就活セミナーなどを行っておりますので、それらへのお誘いも兼ねています。会場は毎年異なりますが、一昨年は渋谷、昨年は明大前にて行いました。明大前?と思われる方もいらっしゃると思いますが、6回生までは京王線・京王井の頭線の沿線に住んでいる学生が多いため、学生からはとても集まりやすいと好評です。

会費は新入生1000円、その他学生2000円と大変リーズナブルな金額設定としており、これは全体として半額程度を同窓会から補助をしていただくことで実現できています。この場をお借りして同窓会の皆様に御礼申し上げます。そんな新人歓迎会ですが、例年80名程度の方に参加していただいています。うち新入生とその他学生(ほとんどがn回生($n = \text{year} - 1953$))がそれぞれ35名ずつ、同窓会の役員の方が10名程度となっております。昨年は長谷川会長にもご出席いただきました。

世代を超えて附設の話で盛り上げられるというのは、不思議な感じもしますが、とても楽しいひとときでした。会のメはもちろん校歌を全員で歌います。

このような歓迎会は他の高校さんの同窓会ではほとんどやっていないと私の周りからは聞いています。今の大学に附設からたった独りで入った身として、附設の同窓会は歓迎会や就活セミナー等の様々なイベントを通して、大学生活をサポートして頂ける事は大変心強く、ありがたい事だと感じています。

私達は今後もお世話になる予定しかありませんが、将来的には同じように若い世代をサポート出来る人となるよう精進して参ります。今後ともよろしく願いいたします。

★在校生への支援①★

■進路講座■ 中3・高1対象に、同窓会から母校へ、講師陣を派遣

理事 吉本幸治(28回生)



2013年10月5日・11月30日、母校にて「進路講座」を開催

同窓会による学校支援事業の一つである「進路講座」が25年度も10月5日と11月30日の日程で開講されました。本講座は久留米大学附設中学校・高等学校の学校紹介パンフレットにおいて「本校卒業生が、変革期にある大学・学問・研究の実績や、さまざまな職業の世界について、体験的・実践的に熱く語りかける。」と紹介されており、同窓会の母校教育への影響と責任の大きさ感じるところです。さて本稿では実際に在校生が「進路講座」からどのようなことを学んでいるかを、一部の講義のタイトルと彼らの感想文を紹介することで感じ取っていただこうと思います。本来すべてをご紹介したいところですが、紙面の都合で一部の抜粋になることをお詫びしつつご容赦のほどよろしくお願いいたします。

「**実際のグローバルな仕事環境（一般）**：国内にとどまらずグローバルな目で世界を見つめる事が大事であるということを感じました。今はどんどん世界のグローバル化が進む中、もっと広い視野を持つことによって見る世界も変わるのではないかと僕は感じました。」

「**国際協力、異文化交流（一般）**：傲慢でなく、日本人として誇りを持って活動すべきなのだということを感じました。」

「**会社ってなんだろう？（企業）**：会社が今の社会の価値観とあっているかが、会社を選ぶ際に大切であり、それが自分の価値観とも合っているか、それらを踏まえて自分の進路を考えていこうと思います。」

「**産業を拓く科学技術（企業）**：私は今回の事業を契機に次のことを心がけたい。多角的な視野を持つこと。なんにでも興味を持って取り組むこと。粘り強く努力し続けること。これらを身に着けるために、毎日新聞を精読することや、広い読書などを実践したい。」

「**ダム・原発・風力発電—工学への招待（環境）**：先生が見せてくださったダムの写真が思っていたよりもきれいだった。作り上げたダムを上から見たときに感動したと仰っていたのも納得がいった。個人的にはコンクリートのダムより砂を生かしたダムのほうが自然らしさを感じられて好きだったので、そんなダムがもっと増えてほしい。」

「**法律家の役割・法曹養成制度（司法）**：法律家がすべきである憲法にのっとった「民主主義」を守るとは、考える材料となる正しい事実をしっかりと伝える、つまり知る権利を守り抜くことである。本当の意味で、国の形を法律家が守り抜くとはどういうことであるか教わった。」

「**公務員、それはX年後を展望した総合サービス業（行政）**：時代の流れを読んで（時間）、仕事での活動範囲を考え（空間）、自分に向いている、自分がやりたい仕事をする（人間）、この三つをじっくり考えて自分の人生をかけても悔いのない仕事をする。これが、最もいい職業選択なのでは、と私は思いました。」

「**行政の果たす役割について（行政）**：国民皆年金なのは知っていたが、それが国際的には珍しいということは意外だった。また、積立期間などが国によって違うためそれを調整するために社会保障協定というものがあるということだった。この協定を結べるか結べないかというのは国民の生活に直接関わることなので、やはり官僚というのは責任のある仕事だと思った。」

★在校生への支援②★



「人間社会における動物実験の役割(教育・研究):医学の進歩は喜ばしいが動物の犠牲は嫌だという矛盾。ただ、僕はこの世界は矛盾にあふれていると思うので、そのうちのひとつだと思っています。しかし、それでも、御船先生たちは「プロフェッショナルの自信」を研究者の原則の一つに抱え、今日も動物実験をされていていらっしゃると思います。本当に尊敬しています。」

「医療、医学、基礎科学(教育・研究):医者と言ったら臨床医で、患者さんを治療することが一番やりがいを感じるだろうと思っていたが、大学で研究することの楽しさを知ることができたので、そっちもやってみたいと思うようになった。この進路講座で自分の未来の視野を広げることができたのでとても良い経験になったなと思った。」

「それでも医者になりますか?(医療・生命科学):患者さん一人ひとりとの出会いはかけがえのないもので、医師は患者さんとの対話の中で心を癒してもらうものだと言った。そこに臨床医という職業の大きな魅力を感じた。」

いかがでしょうか。在校生諸君が講師のみなさんの授業を通して、さまざまな職種に触れ、理解を深めると同時に、成長しつつある様子がうかがえると思います。またそのような機会に関わることができた喜びを感じていただくとともに、今後とも同窓生諸兄のさらなるご支援をよろしくお願いして今回の稿を終えさせていただきます。

2014年4月

★社会への支援①★

■『修羅救世』有志活動の中間報告■ 被災地の進学希望者への経済的支援

修羅救世有志活動事務局長 増田恒夫(13回生)

あの東日本大震災より早くも3年が過ぎようとしています。久留米大学附設高等学校同窓会の内では有志70名による、被災した高校生の大学支援をする為の支援金は、334万円余に上りました。有志皆様のご協力と同窓会のご支援に感謝致します。

事務局では、一昨年、本年と現地に赴き、母校OB(20回生)で、ご自身も被災された小川進氏の助言等を伺って、TV等でご承知と思いますが、震災による被害が最も大きかった陸前高田市に赴きました。7万本という白砂青松の水辺から後方の山裾まで、鉄筋ビルの骨組み以外は全て流された旧市街地の光景は想像を絶する有様でした。その市で、壊滅的被害を受けた高田高校の臨時避難校舎がある隣市大船渡農高を訪問し、同校生徒で学校長推薦を受けた進学希望者を支援する事に決めました。

今春、医療事務資格取得を目指す短大進学者1名は卒業し、今年は保母資格取得を目指し短大に進学者1名の支援を続けています。個人情報保護等で2名の氏名は公表出来ませんが、在学期間中、毎月5万円(各120万円、計240万円)の支援金を給付しております。給付振込に際しては、前同窓会長井手氏のご厚意にて、筑邦銀行にて手続き、手数料無料等の応援を頂いており、この場をお借りしてお礼申し上げます。残金につきまして、現在宮城県多賀城市の多賀城高校生により進められている、震災津波到達地点を通学路の電柱に表示する運動への助成金を検討している所です。最終的には2015年3月の最終給付完了後に、改めて活動総括及び決算報告をする予定です。

同窓会としての社会貢献活動については議論を呼んだ所ですが、この活動が、今後母校発展と支援の一礎石になったのであれば幸甚です。

2014年4月

★社会への支援②★

■修羅道基金支援者からの報告■

二人の女子短大生からの礼状

昨年に続き今年も、修羅道基金支援者の女子短大生2名から、1年間の経済的支援に対する礼状が届きました。自らの希望を見つけて、あの悲惨な震災の体験から立ち直ろうとする姿が目には浮かびます。匿名でご紹介します。

●卒業の御礼と就職のご報告 新社会人として頑張ります!!!

私は今年の3月20日に、仙台の短期大学を卒業しました。現在は、去年の12月に内定をいただいた全国に店舗を構えているジュエリーショップの販売士として、東京で働いています。

宮城から東京へ出てきて、不安もありますが、仕事にも少しずつ慣れてきました。今までは、電車を使うこともあまり無かったので、電車通勤にもあまり慣れていませんが、現時点では、何もかもが新鮮で、これからへの期待の方が大きいです。

職場では、まだまだ未熟ですが、先輩方から早くいろんな技術を吸収して、一人前の販売士になれるよう、会社に貢献できるように日々前進していきたいと思っています。

最後に、こうして無事大学を卒業し、就職できたのは、久留米からの奨学金援助があったからです。

大学生活2年間、本当に助けていただきました。一瀬さん、本当にありがとうございました。

新社会人として頑張ります!!!

●一年間の御礼 保育士になるのが長年の私の夢

拝啓 ご報告、遅くなりました。先日、1年間の集大成を迎え、春休みを迎えました。今年度は皆様の温かい支援のおかげで、大変充実した1年間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。

この1年間、私の長年の夢である保育士になるため、日々学習に励みました。保育園での実習や施設での実習も行い、より夢が明確なものとなり、来年も夢の実現に向けて、学習や実習に力を入れて頑張りたいと強く思っています。また、学校での学習だけではなく、日々過ごす中で保育士に必要なとされる、ピアノや工作などにも一生懸命取り組ましました。そして、社会経験のため、アルバイトやボランティア活動にも参加し、充実した毎日を過ごしています。

このように、自分の夢のために学校へ通い、充実した日々を過ごすことができているのは、支援して下さった皆様、家族、友人など、たくさんの方々のおかげだと考えています。来年度は、短大生としての最後の年であるため就職活動があります。より力を入れて勉学に励み、夢を実現し、皆様に恩返しできるように頑張ります。

今年度は、温かい支援、本当にありがとうございました。来年度も、支えてくださっている皆様への感謝の気持ちを忘れずに頑張ります。

敬具

私は今年の3月20日に仙台の短期大学を卒業致しました。現在は、去年の12月に内定をいただいた全国に店舗を構えているジュエリーショップの販売士として東京で働いています。
宮城から東京へ出てきて、不安もありますが、仕事にも少しずつ慣れてきました。今までは、電車を使うこともあまり無かったので、電車通勤にもあまり慣れていませんが、現時点では、何もかもが新鮮で、これからへの期待の方が大きいです。
職場では、まだまだ未熟ですが、先輩方から早くいろんな技術を吸収して、一人前の販売士になれるよう、会社に貢献できるように日々前進していきたいと思っています。
最後に、こうして無事大学を卒業し、就職できたのは、久留米からの奨学金援助があったからです。
大学生活2年間、本当に助けていただきました。
一瀬さん、本当にありがとうございました。
新社会人として頑張ります!!!

拝啓
ご報告、遅くなりました。先日、1年間の集大成を迎え、春休みを迎えました。今年度は皆様の温かい支援のおかげで、大変充実した1年間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。
この1年間、私の長年の夢である保育士になるため、日々学習に励みました。保育園での実習や施設での実習も行い、より夢が明確なものとなり、来年も夢の実現に向けて、学習や実習に力を入れて頑張りたいと強く思っています。また、学校での学習だけではなく、日々過ごす中で保育士に必要なとされる、ピアノや工作などにも一生懸命取り組みました。そして、社会経験のため、アルバイトやボランティア活動にも参加し、充実した毎日を過ごしています。
このように、自分の夢のために学校へ通い、充実した日々を過ごすことができているのは、支援して下さった皆様、家族、友人など、たくさんの方々のおかげだと考えています。来年度は、短大生としての最後の年であるため就職活動があります。より力を入れて勉学に励み、夢を実現し、皆様に恩返しできるように頑張ります。
今年度は、温かい支援、本当にありがとうございました。来年度も、支えてくださっている皆様への感謝の気持ちを忘れずに頑張ります。
敬具

丁寧にかかれた礼状

★社会への支援③★

■被災地からの報告■

被災地の高校生と防潮堤について考える

2011年3月11日の震災当時は、塩釜高校勤務であったが、その日は宮城県立高校入試の採点日であったために、生徒は登校していなかったため混乱は少なかった。塩釜高校は高台にあるために、被災の心配はなかったが、停電のためにテレビは使えず、被災地では何が起きているのか分からないままであった。

余震が収まらず、大津波警報が解除されるのを待ったために、港近くにあった借家に行ったのは3日目だった。当然全壊だった。その後一カ月は学校内の合宿所で寝起きした。4月下旬に学校が再開されるに



塩釜市応急仮設住宅
入り口は冬になる前に2重となる。

従い、塩釜市の避難所へ移った。避難所では朝晩の2食が給仕され、似た境遇の者ばかりなので居心地は良かった。

そのうち仮設住宅の建設が進み、6月下旬に避難所は閉鎖されて全員仮設住宅に移った。自分も1K(1DKではない)の仮設に入居したが、エアコンから電化製品はすべて揃っており、以前の借家よりも整っていた。

5月から再開された高校現場では「生徒の心のケア」なることが標榜され、授業で震災に触れることは禁止されて、3年後の今日に至っている。震災直後にこの事が県教委から通知された時、違和感を覚えた。これは生縫の心のケアを口実に、被災と向き合うことを忌避しているとしたか思えなかった。果たして、その後も被災地の学校としての取り組みは何も行われず、県教委からの指示も無かった。

自分としては被災地の高校生がそうでない地域の高校生と全く同じ生活でいいとは思えなかった。進学や部活動を考えると、被災に向き合っている時間は受験勉強の負担になるとの否定的扱いである。これには抵抗があったがしかし自分として生徒に何をさせて震災と向かい合わせるのかそのときに案は無かった。

震災から一年が近づくと1月、小雪が鐘う雪の日に自分の研究室で「津波の高さを調査して、その高さを電柱に表示する活動を生徒に行わせる」ことを思いついた。来年の3年選択「塩釜学」で実電するのだ。この活動は被災

災の継承であるとともに、地域の防災運動としても展開できる。心はずんだ。



津波標識設置

ところが3月になり多賀城高校に転勤するとの知らせで計画は頓挫した。4月から多賀城高校に勤務したが、通

宮城県立多賀城高校 教諭 小川 進 (20回生)

勤距離が2kmから4kmになっただけで、生活は今までと同じだった。しかし定年退職まで2年を残し、新しい学校で何ができるかは見当がつかなかった。

新しい学校になじんだ5月ごろ、校長に「津波標識を電柱につける活動」を提案したところ、校長は大いに乗ってきた。これは意外だったが、校長とは同じ歳で、最後の学校で何かをしたいという気持ち同じだったようだ。

1年の必修物理の授業で希望者を募り、夏休みと冬休みに調査を続けた。多賀城市は三陸の各町のような破滅的な津波ではなく、仙台湾から津波が襲う、いわゆる都市型津波であったので、被災した家屋には津波の痕がまだまだ残っている。これを水準器で計測してゆく地味な作業だったが、参加した生徒たちはよくがんばってくれた。そして翌2013年の夏からやっと標識設置する段階となった。この活動が地元でも評判となりテレビ局5社が取材に訪れ、多賀城市の減災会議にも出席するようになった。

こうした夏も過ぎ、3

年目が近づく秋ごろ、被災後1000日と言われるようになり始めた。そして時期を合わせて防潮堤の問題がマスコミやネット上で見聞されるようになってきた。多賀城市は海に隣接しておらず、防潮堤問題は抱えていなかったが、多賀城高校への通学者が住居する範囲にはいくつかの浜沿い地区があり、そこは防潮堤問題を抱えていた。その一つが七ヶ浜町であり、もう一つは仙台市蒲生であった。

津波標識活動の生徒たちの中で継承活動に意識が高い生徒たちに、住民集会などの傍聴を呼びかけたところ、5~6名が希望してくれた。

それから住民集会、学習会、県の防潮堤建設説明会などいろいろに参加してゆくと、段々防潮堤の問題が見えてくる。(1)高さの問題、(2)場所の問題、(3)コンクリートなどの材質の問題、(4)移転地区の指定範囲の間



■生徒のヘルメットの高さに津波痕がある。



■津波痕の高さを電柱に水準器で移す。



■水準器で示した高さに、津波痕の標識を設置する。

中央の女子生徒はこの場所で津波に遭遇し、7時間車の屋根に立ち尽くし、自衛隊に救助された。

この辺は仙台湾から1kmほどであり3mほどの津波高だが、仙台湾では8mほどの津波が到来している。(津波高は標高)

★社会への支援④★

題などである。

仙台市の七北田川の河口に蒲生という浜があり、今回の津波で町のすべてが立退き地区となった集落である。かつて仙台藩には貞山運河という日本最長の運河があり、江戸期には塩釜湾から仙台城下まで水運が整備されていた。その中継地としての役目を蒲生は担っていた。また七北田川の河口は蒲生干潟となり、国の特別保護区にもなっている。

その運河も40年前に仙台新湾掘削時に埋め立てられ、江戸時代からの集落跡も今回の津波で壊滅してしまった。その跡地を仙台



■5/24蒲生地区で首相 人をご案内する

市は工業用地にする計画で区画整理を進めている。またこの蒲生干潟に大きな防潮堤の建設が予定されており、環境団体などが見直しを要請していたが、富城県仙台市は計画を変更していなかった。

こういった状況の中で高校生が集会に参加し始めたのである。始めは傍聴だけの予定であったが、だんだん事情が理解できると、彼らなりに自分たちの案を考え始めるようになってきた。



■蒲生干潟の清掃活動に参加



■仮説住宅を訪問して提案を説明

そこで蒲生の学区である高砂中学校の卒業生が集まり、アイデアを出し合った。そして「緑の防潮堤」としての提案を考えた。これはコンクリート防潮堤の代わりに緑の防潮堤づくり、場所も少し引堤として設置し市民の里山にしたいという提案であった。これを2月の住民集会で披露してところ好評だった。

しかし同時に地域の方から貞山運河への思い出も色々聞かせていただいた。このことが契機となり、郷土誌などで勉強してゆくこととなる。そして3月には、より広範囲に歴史公園として整備する案を提案した。

これが評判となり、5月9日には仙台市と宮城県へ提案を届け、5月24日には安倍首相夫人へ直接発表する機会も設けていた。そして6月4日の参議院本会議「海

岸法改正」の審議では中高生の提案が議員資料として紹介されるまでになる。

しかし、このような大きく取り上げられた中高生の提案であるが、まだ仙台市の区画整理事業の見直しまでは至っていない。

昨日6月4日も蒲生地区の土地整理の説明会に



■5/9仙台市への提案



■5/9宮城県への提案

生徒と参加してきたが、被災した土地を仙台市は、区画整理するために換地を行い、それを再評価して買い上げることとなり、住民としてはできるだけ高額になることを期待するのは当然のことである。この買い上げ金が住宅資金になる家庭もあるだろう。自分たちの土地が工業用場になるのが、公国用地になるか考える余裕はないと思われた。



■中高生もよる提案のイラスト地図

提案の詳細は下のQRコードから閲覧できます。

この中高生の活動は、仙台市が工業用地として買い上げた土地を公園用地として要望する住民運動として育てるべきものであることが分かった。一緒に傍聴した高板生も同じ意見だった。長い運動になることを確認できた説明会となった。

今被災地各地で作られている防潮堤は50～60年後に補修の時期を迎え、これからの世代に負担を背負わせることになる。しかしその補修費用は自治体負担となり、人口が減少している東北各地で、コンクリートの防潮堤を維持できるのだろうか？この問題はこれからの世代に選択させるべき問題だと感じている。



中高生提案.pdf



TV)市民への説明5/9



TV)首相夫人への案内5/24

★母校のいま①★

■進学状況報告■

附設高等学校 平成24年度 大学入試合格状況

附設高等学校 進路指導部長 城戸 清

表Ⅰ 国公立大学合格者数 (単位:人)

平成25年度		平成26年度	
九州	26	東京	38
東京	24	九州	36
京都	17	熊本	15
熊本	11	京都	13
佐賀	9	大阪	6
横浜国立	6	長崎	5
神戸	6	東京医科歯科	4
山口	5	東京工業	4
鹿児島	5	山口	4
その他	50	その他	38
合計	159	合計	163

国公立大学の「その他」は、大学校、自治医科、産業医科を含む

表Ⅱ 私立大学合格者数 (単位:人)

平成25年度		平成26年度	
早稲田	32	慶應義塾	44
慶應義塾	30	早稲田	34
東京理科	18	同志社	19
立命館	18	福岡	18
中央	15	東京理科	17
同志社	15	立命館	12
明治	12	明治	10
久留米	6	久留米	10
西南学院	6	中央	9
その他	42	その他	32
合計	194	合計	205

私立大学の「その他」は、自治医科、産業医科を含まない

表Ⅲ 医学部合格者数 (単位:人)

平成25年度		平成26年度	
九州	12	九州	24
佐賀	7	熊本	13
熊本	7	長崎	4
神戸	5	山口	3
山口	5	京都	2
鹿児島	5	東京医科歯科	2
大分	4	京都府立医科	2
京都	3	佐賀	2
北海道	3	大阪	1
東京	1	神戸	1
その他	12	その他	8
国公立計	64	国公立計	62
久留米	6	福岡	11
福岡	2	久留米	10
慶應義塾	1	慶應義塾	2
その他	17	その他	9
私立計	26	私立計	32
防衛医科	4	防衛医科	6
合計	94	合計	100

国公立大学の「その他」は、自治医科、産業医科を含む

■国公立合格数が少し増加

平成26年度は、国公立大学に現役生86名(防衛医科大学校5名、防衛大学校2名、気象大学校1名、自治医科大学1名を含む)、浪人生77名(防衛医科大学校1名、産業医科大学2名を含む)が合格しました。合計163名で、昨年より4名の増加でした。

東京大学が現役生23名、浪人生15名で合計38名、九州大学が現役生21名、浪人生15名で合計36名、熊本大学が現役生5名、浪人生10名で合計15名、京都大学が現役生4名、浪人生9名で合計13名などが主なものです。

東京大学は昨年より現役生が11名、浪人生が3名で合計14名増加しました。ここ5年間で最大の合格者数でした。この数字は、昨年より10名増えた九州大学の合格数を、平成12年以來5年ぶりに上回っています。京都大学が4名減りましたが、熊本大学は4名増えています。昨年と1位と2位が、3位と4位が入れ替わった形となりました。

■今年も医学部医学科に多数合格

国公立大学の医学部医学科(産業医科大学2名、自治医科大学1名を含む)が現役生31名、浪人生31名で合計62名、昨年より2名減ですが、ほぼ同数になりました。九州大学では、一昨年と同数の24名に戻っています。熊本大学では、倍増の13名で、昭和57年の14名に次ぐ過去二番目の記録でした。今年もまた、京都大学2名、大阪大学、神戸大学の1名ずつに加えて、東京医科歯科大学、京都府立医科大学に2名ずつなど、昨年に引き続いて一浪生を中心に進学先の大学が多様でした。長崎大学は現役生、浪人生2名ずつ合格しましたが、残念ながら、佐賀大学では現役生2名、浪人生0名で、平成19年以來7年ぶりのことで厳しい結果でした。

■そもそも医学部医学科の希望が多い

本校の卒業生は約200名ですが、最近では四分の一の約50名が文科系、残り約150名が理科系です。そのうちの過半数、80名程度が医学部医学科志望で、実際、毎年70名以上が進学しています。60名ほどが国公立、他は私立で、もちろん久留米大学にも毎年数名進学しています。

高等学校から50名の募集を男女共学にしてこの春でちょうど十年目となりました。入学時には、女子生徒の多くが医学部医学科志望です。将来にわたって学ぶ向学心を持っていて、労を厭わず他人の役に立つ仕事をしたいとの希望に加え、保護者に医療関係者が多いことから、自然なことだと思います。本校では、その希望が叶えられるように、男女を問わず手助けをしようと努力しています。

■校内模擬試験が進路指導の要

本校の進路指導の要に、校内模擬試験があります。高校二年生までは、日々の学びのまとめを、年間5回の定期テストで確認していきませんが、高校三年生と希望する浪人生は、年4回の校内模擬試験を受けます。個別の大学入試に対応した記述形式の模擬試験で、平均点は約4割、4回平均で5割を越えれば、東京大学、京都大学、九州大学医学部などの難関大学にかなりの確率で合格できます。

問題作成と採点には、本校の中学、高校入試と同様、ほとんどすべての教員が参加し、成績検討会もします。高校三年生を直接教えてい

★母校のいま②★

なくても、問題の作成と採点を通じて指導しています。また、将来の高校三年生になったとき実力がついているように、高校二年以下の生徒の学習指導に生かしていくことができます。

■新課程入試で現浪とも切磋琢磨を

平成27度の入試から、数学と理科は新課程を学んだ生徒たちが受験します。センター試験をはじめとして、特に理科では、文科系でも、「基礎」がついた科目とはいえ、二科目と科目数が倍増し、理科系では「専門」科目で、試験範囲が倍増して、昨年まで二次試験で実施された内容となります。去年までの過去問が使いにくいので、予備校などの校外模試の積極的な利用も必要です。

昨年は東大を始めとして文系の現役生は不合格者多数でした。その反省を生かし、今春は一転して、素晴らしい成果を上げてくれました。一方、理科系の現役生は、昨年並みには健闘しましたが、東大理系と医学部後期は厳しい結果でした。合格できる大学ではなく、志高く進学したい大学を目指して、来春を期した諸君が大勢います。校内模試でも現役生と切磋琢磨してほしいと願っています。

★恩師を囲んで①★

■古賀直先生古希の会■

『古賀直先生の古希祝いと還暦同窓会』 三年間一度もクラス替えが無かった学年

安部 政信 (20回生)



1969年附設高校入学の20回生Cクラスの20名余りが、去る5月24日(土)に、全国各地から博多に参集した。2年間クラス担任を受け持たれた古賀直先生の古希のお祝いと、還暦同窓会とを併せて行うためである。現在先生は母校の非常勤講師として、週2日ほど教壇にお立ちになられているとの事であり、まだまだ心身ともにお若く、とても我々の10歳年上には見えない。実は我々20回生は、入学してから卒業するまでの3年間、一度もクラス替えが無かった学年である。多分大学入試の結果が散々だったので、その試みは、後にも先にも我々の回生だけのようである。特にCクラスには、授業サボりの遅刻や早退の常習犯がたくさんいて、古賀先生には大変ご心配をおかけしたのではないかと思う。

- ・参加者(集合写真の右前列より時計回り): 古賀直先生、安部政信(東京)、柘植明善(福岡)、鹿子嶋暢(東京)、松山博之(福岡)、壇浦龍二郎(札幌)、青木昇(佐賀)、蒲池光久(東京)、山下嘉弘(東京)、山田健一(兵庫)、河島正司(東京)、川浪建一郎(東京)、大津留浩二(久留米)、橋本孝司(福岡)、樋口隆一(久留米)、森山敦夫(杷木)、吉松文雄(東京)

★恩師を囲んで②★

さて受付開始の18:00過ぎになると、懐かしい顔や、卒業以来初めての出会い故、お互い誰なのか分からない級友たちが会場に現れて、古賀先生を取り囲むように、自然と輪になって話が弾む。和やかな雰囲気の中、幹事で司会役の柘植君が、式次第に沿って進行する。まずは幹事代表の森山君より、懐かしい柘木君での開会の挨拶。物故者(5名)の黙とうの後、古賀直先生にご挨拶頂いた。20回生は自分の還暦(東京支部総会に招待)や定年(原鶴で一泊退官同窓会)など節目の折に誘ってもらい本当に有難いと、感謝のお言葉を頂戴した。我々は古賀先生が教師として厳しい中にも、どこか頼れる兄貴のような存在であったので、一緒に楽しい時間を共有したいとの思いから、ご迷惑も顧みずお誘いしている次第である。元祖こわもて教師の古賀直先生からそのようなお話を頂くと、ちょっとくすぐったい気がしないでも無いが、喜んでいただければ本望である。

そして宴会幹事の私が冗長な乾杯を行った後、いよいよ賑やかで、男臭い宴が始まった。柘植君が会場の八仙閣(17回生の同窓会も別フロアで偶然開催されていて、古賀先生も挨拶に行かれた)の手配とともに、周到に準備してくれたパワーポイントを使って、附設の新校舎の様子や、我々の卒業アルバムをスクリーンに写し出してくれた。

新校舎については先生に解説をお願いし、立派になった校舎に感激するとともに、取り壊された武道場や旧扶桑学寮を思い浮かべ、各々の附設時代に戻っていった。思い出の卒業写真の自分の顔がスクリーンにアップされたら、本人が前に出てきて近況を報告。ホームルームでの3分間スピーチの再現だ

。皆元気に発表したが、還暦の為か、体調面や病気の話が多かった。そうこうしているうちにあっという間に予定の3時間は過ぎてしまい、校歌を声高らかに歌いお開きとなった。今回は、先生の喜寿祝いを兼ねた同窓会だ。帰路につく人、二次会に行く人、それぞれが7年後の再開を誓って、会場を後にした。ああ、附設よ、今夜も有難う！と裕ちゃん風に口ずさみながら。



『謙虚たれ』附設校の独自路線を模索した学年



高校3年生体育祭・青春の思い出

★20回生還暦同窓会記①★



美奈宜神社 第26代宮司
内藤主税君

我々20回生は、ある意味過渡期の回生でした。

- ①今は無き鉄筋4F建新校舎(旧陸軍兵舎利用木造校舎から17、18、19回生は、昭和43年秋移転される)に新入生として初めて入学。同じく、可愛らしい附設中学1回生50人が入学。
- ②附設高校の長い歴史の中で、唯一3年間クラス替えが無い学年でありました。
- ③自由奔放に生徒の自由度を持たせてもらって、いくつかの同好会(サッカー、プロレス、演劇、etc)が出来ました。
- ④③の結果、余りにも自由奔放過ぎて、大学入試成績が悪く、21回生からは受験対策に厳しく方向転換されたと聞き及んでいます。

只、そういう20回生ではありますが、実社会に出てからは、それなりに活躍している面々も沢山いる事を付け加えておきます。

その20回生も昨年還暦を迎え、今年1月11日(土)～12(日)筑後川温泉で『附設高校20回生還暦大同窓会』を開催しました。お陰様で33名の参加を頂きました。

伊藤鴻先生(3D)、柳瀬秀孝先生(3A)、中山右尚先生(3B)にもお元気な姿でお越し頂き、40年振りに会う面々も居り、それぞれの人生に思いを馳せ、昔話に花を咲かせる事が出来、とても有意義な時間となりました。又、美奈宜神社宮司の内藤主税君の本格的なお祓いをして頂き、みそぎも出来て大変良かったと思います。

★20回生還暦同窓会記②★



故伊藤 鴻先生

中山右尚先生

柳瀬 秀孝先生

この会を開催するに当たり、約1年半前より各クラスの幹事さんと、福岡で会合を持ち、メールでの意見交換等をして、当日を迎えました。同窓生への連絡や、出欠確認、当月の受付など大変ご苦労様でした。(クラス幹事の皆さん)

Aクラス 武藤邦弘君 長伸幸君(会計担当)

Bクラス 田中利美君 内藤主税君 吉松聡一郎君 橋本和幸

Cクラス 中村一彦君 森山敦夫君

Dクラス 竹内一平君 [写真撮影協力] 帆足徹君(3B)

P.S. 実は、この会の一ヶ月後に、伊藤鴻先生が筑後川温泉センターに行かれ、入浴中にお亡くなりになりました。心より御冥福をお祈り致します。

伊藤先生はご自分の方からは是非地元開催なので出席したい旨連絡を頂戴しました。我々生徒の還暦のお祝い会にご出席頂いて教え子である一人として大変うれしく感慨深いものがございます。

文責：20回生代表世話人 橋本 和幸



第19回 附設就職セミナー in 田町 at 2014 / 11 / 22 (SAT) 13:00-

■ Originality

附設OBが想いを持って創り上げる
オリジナルで“附設っぽい”就職セミナーです。

■ Evolutionary

附設同窓会という伝統を活かし、過去の
参加者からの要望を踏まえ進化してきました。

■ Community

官公庁・商社・金融・メーカー
IT・マスコミ・広告・流通
幅広い業界の先輩と出会うチャンスです。
懇親会も予定しています。

■ Family

附設ファミリーとして、
お子さんの参加も大歓迎です。

詳しくは、facebookイベント
「第19回附設同窓会 就職セミナー」にて



*会場：キャンパス・イノベーションセンター東京
東京都港区芝浦3-3-6 (最寄：JR田町駅 QRコード右)

★会 告★

■新たな交流の場■ 1号館1階に整備、拡充された、同窓会室・後援会室

同窓会副会長 一瀬徹夫 (13回生)

この度の新校舎建替工事に伴い、1号館1階の旧事務室の後に、同窓会室と後援会室が一室に一体的に整備、拡充されました。今後、同窓会と後援会のより一層の連携、協力により、卒業生と在校生とのさらなる交流が広がることを願っています。同窓生OBが在校生に色々とアドバイスできる場にもなるでしょう。母校に来られた折には、是非お立ち寄りください。



左上：同窓会から毎年卒業生に贈られている卒業記念品のペーパーウエイト

■編集後記■

同窓会報は、これまで毎年1回、5月初旬に発行されてきました。前回からは紙数も大幅に増やし、今回の同窓会報No.21からは、例年5月末に、全国の理事、評議員が母校に一堂に会して開催される理事評議員会の報告を、同窓生の方々に広く広報すべく、7月・8月の発行としました。

卒業生の同窓会員はもちろん、同窓会員である高校在校生、ならびにその保護者の皆様にも、同窓会活動についてより理解を深めていただけるよう、内容の充実に努めました。先生方、卒業生、在校生などから、多くの寄稿をいただきましたことに、厚く御礼申し上げます。

また前回に引き続き、『附設ファミリー』のネットワークの活用のため、および同窓会報の印刷費、発送費の一助とするために、広く寄付、広告を募り掲載しました。寄付、広告をいただきました多くの方々に、厚く御礼申し上げます。今後とも継続していきたいと思っております。

皆様におかれましては、引き続き、同窓会活動へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。同窓会報に関するお問い合わせ、ご意見がございましたら、母校・同窓会事務局宛にお送り下さい。

附設高等学校同窓会・広報委員会：小田恵介 (19回生)・橋本和幸 (20回生)・高木裕康 (28回生)
協 力：一瀬徹夫 (13回生)・伯川志郎 (15回生)・中村昌子 (事務局)